

国崎クリーンセンター里山林整備構想・計画(案)に対するパブリックコメントの結果一覧表

意見番号	該当の章	意見の内容	組合の検討結果
1	1. 里山整備に向けて	整備目的として示されている「環境学習実践の場」、「地域住民が活用できる場」について、ぜひ実現してほしい。	ご期待に添えるよう取り組んでまいります。
2	1. 里山整備に向けて	里山という言葉はすでにかなり人口に膾炙しているとは思いますが、人間の手が入らないのが本当の自然と考えている人もあると思います。なぜ、こんなにもお金と人手をかけて整備しなければならないのかと疑問を持つ人もいると思います。「日本一の里山」「本来の里山のあり方」「新しい時代の里山」など、当たり前のようには書かれていますが、簡単でいいので、里山とか、里山放置林とかの意味、それを整備する意義を書いていただきたいと思います。	「里山」及び「里山放置林」の説明を参考4の中のもの用語の説明欄に追記いたします。
3	1. 里山整備に向けて	この場所を里山林として整備することの、全体（とりあえず兵庫県と大阪府）の中での位置づけを示していただきたい。具体的には、兵庫県と大阪府の地図、そのうち森林の占める部分、さらにそのうち、行政の施策として、あるいは森林組合等の事業として里山整備事業をしている場所。文中に触れられている「日本一の里山」黒川地区や一庫公園との位置関係がわかるように。	当施設の里山林の位置図を参考4に追記いたします。
4	3. 里山林整備構想	ヒメボタル観察会に参加し、裏山には急な斜面が続いていることを体験している。この状態で基盤整備をすることが本当にできるものなのか。また、ここの土は浅いので木々が大きく成長したときに根を深く張っていないことへの不安があると、地元の方から聞いているが、どのくらい木々を大きくし、また伐採して更新していくのか。どのような木々を育てていくのか。エドヒガンを守ることにについては賛成である。	基本的には、保全エリアでの大規模な整備は行いませんが、エドヒガンが分布する箇所については、ヒノキの除伐など保全にかかる必要な整備を行います。活用エリアについては種の多様性を高め、里山林の環境機能の向上を図るための初期整備や管理を行うとともに、活用に向けた整備を順次行おうとするものです。
5	3. 里山林整備構想	活動エリアI2のゾーンの位置づけの項で「里山整備やヒメボタルの観察を通じた環境学習のほか云々」とありますが、この1.0haと言う狭小な地区ですから、他に記されている多くの環境改変的行為（防災工事や伐採、設備の設置）との競合が起こる可能性は否定できないと思います。工事等による環境の変化がヒメボタルの生息を妨げないよう、十分な配慮をすることを明記されるよう要望します。	里山林整備構想の（2）里山林整備の中に「なお、整備に当たってはヒメボタルの生息を妨げないよう十分に配慮する」と追記いたします。
6	4. 里山林整備計画	生物多様性の展示 ヒメボタル・エドヒガンだけではなく、生物多様性を。良好な里山は併せて生物の多様性を表すもので、環境アセス時の調査結果等から一帯の整備、保全を明確に。また、廃坑道利用しているコウモリ類の紹介も。	環境啓発の取り組みの中で、対応してまいります。
7	4. 里山林整備計画	間歩の歴史的価値を・・・ 多田銀銅山地域の文化・産業遺産として後世に伝える展示を。併せて猪名川町の銀山の博物館や川西市の郷土館との連携や、能勢町、豊能町の同様な文化・産業遺産を連携させます。	間歩については、当施設組合の里山における重要な文化・産業遺産であると認識しておりますが、具体的な取り組みについては、今後の課題といたします。
8	4. 里山林整備計画	当区域に生息するヒメボタルの生息環境を堅持し、彼ら一族が衰微ないし絶滅に向かう恐れがないよう、計画の全期間にわたり十分慎重に配慮する計画を作成されるようお願いいたします。	専門家の指導を受けるなどし、慎重に対応してまいります。
9	4. 里山林整備計画	コナラアベマキ群集の特徴・留意点の項で「なお、当地域のコナラアベマキ群集の緩斜面には・ヒメボタルが比較的多くみられる」とありますが、本群集の急斜面や他の群集においてもヒメボタルが生息するか否か、調査の実績はあるのでしょうか。計画前または計画の初期に分布調査を組み込まれるよう要望します。もし新しい生息地が見つかった場合は適切な保護計画の追加が望ましいと思います。	ヒメボタルノの生息調査については、環境影響事後調査等の中で調査が必要とされる区域について、継続的に実施しておりますが、今後の調査・保護対策については、専門家の指導を受けるなどし、対応してまいります。
10	4. 里山林整備計画	里山の役割を学び、里山の自然を学ぶ活用エリアの遊歩道整備の項で・工事によりヒメボタルの生息域が減縮されないよう、慎重に設計・施行するよう追記して欲しいと思います。	里山林整備構想の（2）里山林整備の中に「なお、整備に当たってはヒメボタルの生息を妨げないよう十分に配慮する」と追記いたします。
11	4. 里山林整備計画	県立一庫公園との連携 (1) 施設や展示の重複を避け効率的な整備を (2) 遊歩道などを整備で連携を (3) 交通アクセスの整備・・・山下駅、一庫ダム、一庫公園、国崎クリーンセンター	一庫公園との連携については、事業推進に当たって重要な事項であると考えております。具体的な取り組みについては今後、検討してまいります。
12	4. 里山林整備計画	整備コンセプトの具体的な方策として、次に掲げることを整備計画に反映させ里山林整備構想が市・町民にとって潤いの「国崎クリーンセンター里山林」を望むものである。 1. 周辺地域の「黒川ダリア園」～「国崎クリーンセンター里山林」への遊歩道の整備をし里地里山にふさわしい、市花のリンドウやササユリ・山つつじを植栽して、四季の彩りを高めたい 2. 国崎クリーンセンターの温排水や蒸気を利用して、活用エリアに「足湯でくつろげる」癒しの施設を設置	1. 周辺地域との連携を図るなかで、今後の課題としてまいります。 2. 経費の関係もあり、まずは当施設組合が現在、有する施設の活用を図ってまいります。
13	4. 里山林整備計画	一庫公園ではイノシシの掘り返しに対して、その都度お金をかけて芝生のはり直しなどのメンテナンスをしていると聞いているが、そのような維持管理をここですることは反対である。実際、ようやく再会したグラウンドであるが、これまではイノシシのめた場となっていたと聞いているが、この冬はどうなのか心配だ。	多目的広場におけるイノシシによる被害は、確認されておりません。
14	4. 里山林整備計画	シカを防ぐ柵の設置のことは書かれているが、それはイノシシにも有効なのか。柵の設置だけで解決するものではないと考える。獣害に対して根本的にはどうしていくのか。これは第一に考えねばならないことである。ここから始まるのではないのか。	防鹿柵の設置につきましては、専門家のアドバイスをいただく中で、シカの食害対策が緊急な課題であると考え、初期段階から設置するものです。なお、獣害対策につきましては府県及び市町の施策の中で対応されるものと考えております。
15	4. 里山林整備計画	猪名川上流域の1市3町に共通の課題としてある「新しい時代の里山」再生をうたっているが、これでは単なるレジャーゾーン開発の陳腐なアイデア集に思われる。環境学習とはツリーハウスやフィールドアスレチックを造るのではないはず。ピザ窯、薫製窯なども不要、お隣の一庫公園で十分である。まずは出資している1市3町各自治体が見習える「新しい時代の里山」再生の見本となるものであってほしい。	ツリーハウス等は里山林の利活用の一例としてお示しいたしておりますが、本計画は利活用だけにあるのではなく、里山林の保全も重要な目的となっております。本計画が一面的なものとならないよう十分留意し、取り組んでまいります。

意見番号	該当の章	意見の内容	組合の検討結果
16	4. 里山林整備計画	「日本一の里山」といわれる当該地区において、里山の機能や景観を整備し活用できる単なる「新しい時代の里山」だけではなく、先人達が培ってきた歴史と文化を「知り」「伝え」「繋ぐ」ことが重要である。里山が「茶道文化を支える森づくり」として、地域の発展と人間形成の基本となる礼節・道徳を教わり学んで、地域づくりと人づくりに貢献してきたのである。このようなことから啓発施設が実施する事業に、「茶の湯」を楽しむ味わいながら茶道文化の歴史・文化を学習できる施設の設置を強く望むものである。	茶室の設置については、経費の関係から困難であると考えますが、「茶道文化・歴史と里山の役割について」は、環境教育の見地からどのように取り組むのか、啓発施設が実施する自主事業等を展開する時の参考にさせていただきます。
17	4. 里山林整備計画	基本方針に定めている長期的な整備事業のスケジュールを推進するには、事業に要する資金(総事業費)を予算設定の上、実施計画を行なう必要があるのではと考える。 ・詳細な事業費は、整備事業の年度計画に沿った資金調達(予算設定)が当然なことであり、当該事業を円滑に遂行し完成するうえで必要不可欠な要件と考える。	当施設組合が実施する初期整備については、大きな事業費を想定しているものではなく、現状予算規模の範囲以内での事業展開を予定しています。また、本計画の事業推進に当たっては、啓発施設が実施する自主事業や関係機関、関係団体との協働で実施する事業など、様々な実施方法を想定しているため、総事業費としての設定はしていません。
18	4. 里山林整備計画	猪名川町の里山整備より「人を集める」ことに重点があるような気がします。少しそれに違和感がありますが、それがいいのか悪いのか、判断がつかい兼ねるので保留します。ただ、つどいの森エリアでパーベキューをしなければならぬのか(p.9)。炭や材料を持ち込んで、あと合成洗剤で散々洗って・・・というキャンブスタイルには抵抗があります。森の音楽祭をするなら(p.20)、自然の音と調和するオカリナやギターを。大音量のバンド演奏はやめたほうが良いと思います。	啓発施設の実施する自主事業を展開する時の参考にさせていただきます。
19	4. 里山林整備計画	里山の整備と管理(メンテナンス)の人材を「住民参加型」とするとのこと、とても良い。里山に関心を持ってもらおう観点からも、シニア世代の人、休日だけ参加可能な働いている人たち、ボランティアグループにも参加を呼び掛けると良いと思う。	啓発施設の実施する自主事業を展開する時の参考にさせていただきます。
20	4. 里山林整備計画	ヒメボタルの幼虫観察のための遊歩道柵外への立ち入りは、その結果が経年的な生息調査のフォームで記録され、担当指導者により評価されることを前提とし、遊びに終わらず環境保護を自覚した観察会になることを望みます。なお、観察会や調査時以外は、ヒメボタルの生息域(柵外)にみだりに立ち入らないよう表示や指導が必要である。	ご指摘のことにつきましては、事業展開の中で十分留意し、対応してまいります。
21	5. 推進体制	北摂里山博物館構想(県立人と自然の博物館)への参画を明記されているが、この構想は兵庫県に限られているようなので、少なくとも大阪府下の豊能町、能勢町、池田市、箕面市、茨木市などを含めた全北摂の構想とするように働きかけてほしい。	各自自治体で判断されるべきであり、当施設組合から働きかけることは適当でないと考えます。
22	5. 推進体制	国崎クリーンセンターの里山整備構想が孤立したのではなく、北摂里山博物館構想の中に位置付けるべきだと思う。そうしないと全北摂の中で各々狭い地域が独自に整備をすると、バラバラの内容になってしまうことが懸念される。	当センターは北摂里山博物館の拠点の一つに位置づけられています。今後とも広域的な視点をもった中で、関係機関、関係団体との連携を図ってまいります。
23	5. 推進体制	本構想は国崎クリーンセンターの所有地の整備になっている。黒川地区など近隣の里山をどのように整備するかかの構想が示され、その中で国崎クリーンセンターの里山整備とその活用が、全体の中でどのような位置付けになるのかを明確にすべきだと思う。	広範囲なエリア(里山)を所管する市町と異なり、当施設組合では、近隣の里山整備についての構想を策定したり示すことはできませんが、本計画の推進に当たっては、黒川地域等の周辺地域や関係団体、住民との様々な連携、協働を図ることより、地域全体の活性化に結び付けていく必要があると考えています。
24	5. 推進体制	単に行政が金をかけて出来るモデルではなく、1市3町での里山整備モデルの確立に。	ご期待に添えるよう取り組んでまいります。
25	5. 推進体制	組合を構成している1市3町だけでなく、伊丹、尼崎、池田、豊中市などの広域の方が活用できるようPRに努めた方がよい。	まずは、構成市町内でのPRに努める必要があると考えております。ご指摘のことにつきましては、広域的な連携を図る中で今後の課題といたします。
26	5. 推進体制	この施設は1市3町のものだということを意識してほしいと思います。	常に意識して実施してまいります。
27	5. 推進体制	国崎クリーンセンター里山林に接した、一庫ダム・一庫公園・妙見山・旧黒川小学校の歴史建造物・炭焼き窯・ダリア園・キャンプ場や能勢町、豊能町、猪名川町の観光スポット等への来訪者が「国崎クリーンセンター里山林」に訪れて、老若男女の多くの人々が地域とつながる、元気な「つどり山」として学習、遊び、憩い、潤える場として、「日本一の里山」に親しみ、素晴らしさを認識するとともに、自然環境の保全について理解を深め次世代に継承しなければならない。	ご期待に添えるよう取り組んでまいります。
28	5. 推進体制	兵庫県は地域を指定して里山整備を推進していると聞いていますが、大阪府の取り組みについても知りたいです。せっかく府県にまたがる施設なので、その利点を生かしていただきたいし、豊能町・能勢町の方々にも自分たちの施設と思っただけのように。	構成市町等の里山に関する情報の収集・発信に努めてまいります。
29	5. 推進体制	この計画を立てるにあたって、22ページ(6)Aの環境団体の意見を聞きましたか。住民との協働を求めるなら、計画段階から加わってもらうことがなにより大切です。環境団体は1市3町できちんと調査されたものですか。文書に残すのなら、恣意的になってはまずいと思います。	パブリックコメントで広くご意見をいただけるものと認識しております。また、関係団体等とは、今後の事業展開の中で連携を図ってまいりたいと考えております。なお、団体名の記載につきましては、すべての団体を網羅することは難しいため、表記しないようにいたします。
30	5. 推進体制	猪名川町では栃原めぐみの森や松茸山再生事業等の取り組みが行われています。他の1市2町でもいろいろ行われていると思いますが、他市町の情報はなかなか伝わってきません。それらの情報を収集して一覧にすることで、各市町の取り組みがわかり、互いにノウハウを学びあえるようなセンター的な役割は担えないものでしょうか。何事にも行政の垣根を超えることのむずかしさを感じていますが、山は一続きですから、広い視点を持ちたいものだと思います。	関係機関や関係団体等と連携を深める中で、構成市町等の里山に関する情報を収集、発信することで、センター的役割を担うことができるよう研究してまいります。

意見番号	該当の章	意見の内容	組合の検討結果
31	5. 推進体制	「北摂里山博物館構想」とあるがどういものなのか不明。	北摂里山北摂博物館については、備考欄に簡単な説明を追記いたします。詳細につきましては兵庫県のホームページ等をご参照ください。
32	5. 推進体制	里山整備・管理費用はどのように捻出するのが触れられていません。 ①費用は地方自治体からの出すのではなく（税金は使わない）、企業などからの支援を得ると利用者からの負担でまかなうべきだと思う。そのためには利用者が多く集まるような魅力的な施設やイベントが必要だと思えます。また費用を最小化するためにボランティアに協力してもらえようと思えます。 ②収益を増やすための方策はいろいろ検討すべきだが、間伐材を「まき」として販売することの一策だと思う。（最近少しはあるが「まき」を使った暖炉を持った家もある）	①枯れ松の処理やヒノキ林の間伐などの初期整備は、基本的には組合予算で実施しますが、できれば補助金等も活用し、実施してまいりたいと考えています。住民等との協働はこの事業を推進する上で、不可欠なものと考えており、ご意見を参考にしてまいりたいと考えています。 ②独自財源の確保は大切なことだと考えており、今後、事業を展開する時の参考にさせていただきます。
33	5. 推進体制	新たに里山クラブを結成する予定とされておりますが、すでに周辺ではいくつかの森林ボランティアが活動されております。そこでは、活動費・活動場所・会員の確保や高齢化への対応などが課題となっていると聞いたことがあります。そういった中、新たな団体を作るよりは、現在活動されている団体に協力をお願いしてはどうでしょうか。また、もし作るのであれば、中学校から5、60歳ぐらいの層で森林に関わる期間が少ないと思うので、逆に空白期間層・世代が中心となるような団体を作られてはどうでしょうか。また、併せて、里山林を活用し森林ボランティア養成講座等を開いたりしてはどうでしょうか。	現有の森林ボランティア等の団体との連携は、この事業を推進する上で不可欠であると考えております。一方で当施設組合独自の団体の育成も同時に大変重要な課題であると認識しております。今後、事業を展開する時の参考にさせていただきます。
34	5. 推進体制	一庫公園とも協力して、住民参加のグループが主体となって里山の管理運営をしていくようにしてほしい。	今後、事業を展開する時の参考にさせていただきます。
35	5. 推進体制	中身としては、北摂地区の貴重な里山を守る取り組みであり、私たち市民としては、子どもたちを連れて、「ゆめほたる」でリサイクルを楽しく学習できるだけでなく、里山について学べることは、地域に愛着を持つのに大変効果的であると思います。 特に子供が通う牧の台小学校で3、4年生が里山を学ぶ取り組みが行われており、それを補完する意味でも大変効果的であると思います。そこで、実施するうえで考えていただければということで、数点意見を述べさせていただきます。1点目は、せっかくの素晴らしい取り組みであるので、多くの人に参加してもらおうことが大切で、多くの人が参加し、体験することで、より良い効果が得られると思います。現在、川西市の小学校では、上記のとおり、里山を学ぶ取り組みを行っておりますが、受け入れの問題で学ぶ内容にはばらつきがあります。ぜひ各市町に呼びかけ、3市1町の子供たちが皆、このすばらしい里山を学べるようにしてほしいです。	当施設組合では、廃棄物の処理施設として4年生の社会科授業の中で毎年多くの学校から児童が見学に來ています。学校側のニーズを踏まえる中で、こうした機会をとらえ、よりよい環境教育の一助となるよう研究してまいります。
36	5. 推進体制	地域の小学校の環境教育の場としての活用も重点の1つとした方が良いでしょう。	
37	5. 推進体制	「ゆめほたる」の館内を有効に使ってほしい。	本計画推進にあたっては、ゆめほたるの館内を有効に活用してまいります。
38	6. 今後の課題	猪名川町の「里山再生基本構想・実行プログラム」（猪名川町HP）は、素人の住民にも里山整備の必要性がよくわかるようにやさしい言葉でわかりやすく書かれていると思いますし、楽しさが伝わります。	今後、作成する本計画概要版では、よりわかりやすい表現等になるよう配慮してまいります。
39	6. 今後の課題	里山保全活動を推進する上で、環境活動団体とのネットワークの構築については、北摂周辺の里山において活動されている団体との連携を強化し推進することが望ましいことであるが、これらの団体も今日の高齢化が顕著な社会情勢において人材ならびに後継者の発掘と育成に苦慮されている現状である。これらの課題に向けたさらなる多様でかつ広域的なネットワークを拡げ、男・女、壮年を対象とした啓発活動と教育研修の機会ならびに、雇用促進につながる施策を積極的に取り組むことが、当該事業の運営とこれからの里山林の保全活用を推し進めていくには重要なことと考える。	人材の育成につきましては、事業を推進する上で重要な課題であると認識しており、研修会や講座を開催するなどし対応してまいります。また、地元雇用につきましては、当施設組合全体の事業の中で取り組んでまいります。
40	6. 今後の課題	シニア世代の野外活動としてハイキンググループなど（小生の近くでは、妙見ハイク、水曜ウォーキングなど）をよく見かけるが、歩くのが主目的となっているようだ、これらグループに里山の良さや樹木、野草、昆虫などに関心を持ってもらえるようなPR、講習をし、里山の散策もしてもらえると良いと思う。	啓発施設が実施する事業の中でもニーズを感じているところであり、今後、事業を展開する時の参考にさせていただきます。
41	6. 今後の課題	環境学習の実践の場として住民が活用できて、環境学習と併せて癒しや憩いのひとときを提供できる具体例として、北摂里山周辺の自然環境の学習をテーマにした、澄み切った夜空の下での「星空観察の集い」を行い、大気汚染のない素晴らしい星の輝きを見て、環境保全の大切さとありがたさを大人も子供も実感できる機会をもつことが大切なことではないでしょうか。	里山周辺の自然に触れる機会をもつことは、環境教育の見地からも必要な事業であると認識しており、今後、事業を展開する時の参考にさせていただきます。
42	6. 今後の課題	センターへのアクセスについて、車で行く人には大変便利だと思いますが、電車、バス等では大変利用しにくいと思います。例えば週末だけでもシャトルバス等を運航できないでしょうか。	現在、啓発施設が実施する大きなイベント開催時にシャトルバスを運行しており、これらの運行状況を見定めているところです。今後の検討課題としています。
43	6. 今後の課題	多くの住民が参加できるように、公共機関でのアクセスを考えられないでしょうか。	